



Sun™ Control Station 2.2

Software Installer モジュール

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-1437-10
2004 年 12 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Java, JavaServer Pages, JSP, JumpStart, Netra, Sun Cobalt, Sun Cobalt RaQ, Sun Cobalt CacheRaQ, Sun Cobalt Qube, Sun Fire, および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun™ Control Station 2.2 Software Installer Module
Part No: 819-0447-10
Revision A



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

Software Installer モジュール	1
Software Installer	1
パッケージファイル	2
Software Installer の機能	2
「アップロード」	2
「詳細」	3
「編集」	3
「OS の再度関連付け」	3
「削除」	3
「インストール」	3
「パッケージ」	4
パッケージファイルのアップロード	4
パッケージファイルの詳細表示	5
1 つのパッケージファイルに対する対応 OS の追加と削除	7
複数のパッケージファイルに対する対応 OS の追加と削除	8
パッケージファイルの削除	9
パッケージファイルのインストール	9
フィルタ	10

Software Installer モジュール

本マニュアルでは、Sun™ Control Station ソフトウェアの一部である Software Installer のコントロールモジュールで利用できる機能とサービスについて説明します。このモジュールでは、次の操作を行うことができます。

- 利用可能なパッケージファイルを表示する
- パッケージファイルをコンピュータまたはインターネットから Control Station にアップロードする
- パッケージファイルごとに詳細を表示する
- 1 つのパッケージファイルに対して別の OS を割り当て直す (「編集」)。または、複数のパッケージファイルに対して別の OS を割り当て直す (「OS の再度関連付け」)
- パッケージファイルを削除する
- パッケージファイルをインストールする

フィルタオプションを使用して、表示して操作するパッケージファイルの種類を絞り込むこともできます。

注 – 本マニュアルでは、読者が Sun Control Station ソフトウェアの基本操作を理解していると想定して説明します。ステータスアイコン、スケジューラ、タスクの進捗状況ダイアログなどの基本的な Sun Control Station の機能については、『Sun Control Station 2.2 管理者マニュアル』を参照してください。

Software Installer

Sun Control Station にログインしてから「ソフトウェアインストールプログラム」→「パッケージ」をクリックすると、次のウィンドウが開きます。



図 1 Software Installer モジュール (パッケージ) ウィンドウ

パッケージファイル

本マニュアルでは、Sun Fire™ V60x サーバーなどの Linux ベースのサーバー向けの Red Hat Package Manager (RPM) ファイルを「パッケージファイル」と呼びます。

Software Installer の機能

次に、Software Installer モジュールで実行できる機能について説明します。

「アップロード」

「アップロード」機能は、ローカルリポジトリまたはインターネットから Control Station にパッケージファイルを読み込みます。

「詳細」

「詳細」機能は、そのパッケージファイルに関する特定の情報を表示します。パッケージファイルの名前、バージョン、リリース、ベンダー、ファイル名、概要、説明など、パッケージファイルの関連情報を表示します。

「編集」

「編集」機能は、1つのパッケージファイルについて対応するOSの追加と削除を行います。

「OS の再度関連付け」

「編集」機能と同様、この「OS の再度関連付け」機能は複数のパッケージファイルについて対応するOSの追加と削除を行います。

「削除」

「削除」機能は、利用可能なパッケージファイルの一覧からパッケージファイルを削除します。パッケージファイルが Control Station 上のローカルリポジトリ内に配置されている場合は、利用可能なパッケージファイルの一覧からそのパッケージファイルに対するエントリが取り除かれ、パッケージファイルがリポジトリから削除されます。

「インストール」

「インストール」機能は、選択したホストにパッケージファイルをインストールします。パッケージファイルをローカルリポジトリから管理対象ホストにコピーしてインストールします。

パッケージファイルを実際にインストールする前に、インストールをテストできます。Control Station によって正しい RPM かどうかを確認するための先行テストが行われ、そのパッケージファイルがまだインストールされていないか、など一般的なエラーがないかが確認されます。

「パッケージ」

「パッケージ」オプションは、ローカルリポジトリにあるパッケージファイルを管理します。「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウに、Sun Control Station が認識しているソフトウェアパッケージが一覧表示されます。ソフトウェアパッケージは Control Station に保存されています。

このメニュー項目で利用可能な機能に関する説明については、2 ページの「Software Installer の機能」を参照してください。

次に、「Software Installer」ウィンドウの「パッケージ」内に表示される「利用可能なパッケージリスト」オプションの例を示します。



図 2 「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウ

パッケージファイルのアップロード

1 つのパッケージファイルをアップロードする手順は、次のとおりです。

1. 「ソフトウェアインストールプログラム」 → 「パッケージ」を選択します。
「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウが表示されます。
2. 利用可能なパッケージファイルリストで、使用するパッケージファイルを選択します。
3. 「アップロード」をクリックします。
「パッケージのアップロード」ウィンドウが表示されます。



図 3 「パッケージのアップロード」ウィンドウ

4. 「タイプ」ドロップダウンメニューから「RPM」を選択します。
5. どちらかのラジオボタンをクリックし、パッケージファイルのロケーションを入力します。
 - パッケージファイルのパスとファイル名を入力するか、「参照...」をクリックしてコンピュータから場所を指定します。
 - パッケージファイルをインターネットからダウンロードするには、http://、https://、または ftp:// で始まる URL を入力します。

注 – Control Station がプロキシを介してインターネットにアクセスする場合は、「Station の設定」→「設定」で入力したプロキシ設定が使用されます。この設定をまだ完了していない場合は、URL でパッケージファイルをアップロードする前にこの設定を行う必要があります。詳細は、『Sun Control Station 2.2 管理者マニュアル』を参照してください。

6. 「今すぐアップロード」をクリックします。
「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。
7. アップロードが完了したら、「完了」または「イベントの表示」のどちらかをクリックします。
「完了」をクリックすると、「パッケージ情報の編集」ウィンドウが表示されます。ここから、インストールしたパッケージファイルに対応する OS を入力できます。

パッケージファイルの詳細表示

利用可能なパッケージファイルの詳細情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「ソフトウェアインストールプログラム」→「パッケージ」を選択します。
「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウが表示されます。
2. 利用可能なパッケージファイルリストで、表示するパッケージファイルを選択します。

3. 「詳細」をクリックします。

「詳細なパッケージ情報」ウィンドウが表示されます。



図 4 「詳細なパッケージ情報」ウィンドウ

「詳細なパッケージ情報」ウィンドウには、パッケージファイルについて次の情報が表示されます。

- 「名前」
- バージョン
- リリース
- ベンダー
- ファイル名
- サマリ
- 説明
- パッケージファイルの格納先グループ
- サイズ
- 署名
- 再配置
- ビルド日
- ビルドしたホスト
- ソース
- ライセンスタイプ
- 対応 OS バージョン

4. 「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウに戻るには、「完了」をクリックします。

注 – 「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウで選択したパッケージファイルごとに、詳細情報を表示できます。

1 つのパッケージファイルに対する対応 OS の追加と削除

1 つのパッケージファイルに対して対応 OS を追加または削除する手順は、次のとおりです。

1. 「ソフトウェアインストールプログラム」 → 「パッケージ」を選択します。
「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウが表示されます。
2. 利用可能なパッケージファイルリストで、使用するパッケージファイルを選択します。
編集できるのは、一度に 1 つのパッケージファイルだけです。
3. 「編集」をクリックします。
「パッケージ情報の編集」ウィンドウが開きます。

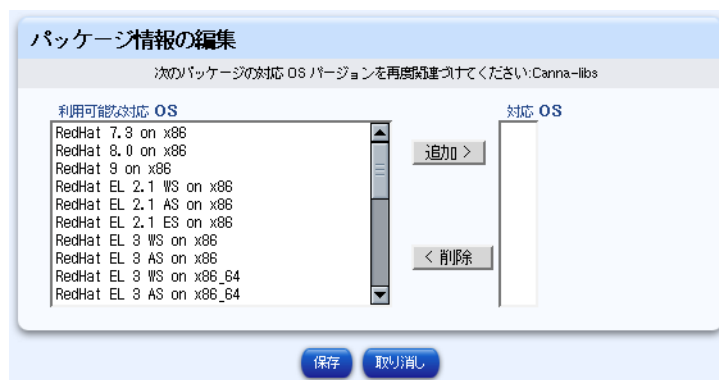


図 5 「パッケージ情報の編集」ウィンドウ

4. 適用できる OS を設定するには、次のオプションを設定します。
 - 「利用可能な対応 OS」 - 使用および追加できる OS 一覧から、具体的な対応 OS を選択します。

- 「対応 OS」 - 個々のパッケージファイル内で現在サポートされている OS を削除および変更します。

5. 編集が完了したら、「保存」をクリックします。

「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウに戻ります。

複数のパッケージファイルに対する対応 OS の追加と削除

複数のパッケージファイルに対して対応 OS を同時に追加または削除する手順は、次のとおりです。

1. 「ソフトウェアインストールプログラム」 → 「パッケージ」を選択します。

「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウが表示されます。

2. 利用可能なパッケージファイルリストで、使用するパッケージファイルを選択します。

複数のパッケージファイルを一度に編集できます。

3. 「OS の再度関連付け」をクリックします。

「パッケージ情報の編集」が開きます。

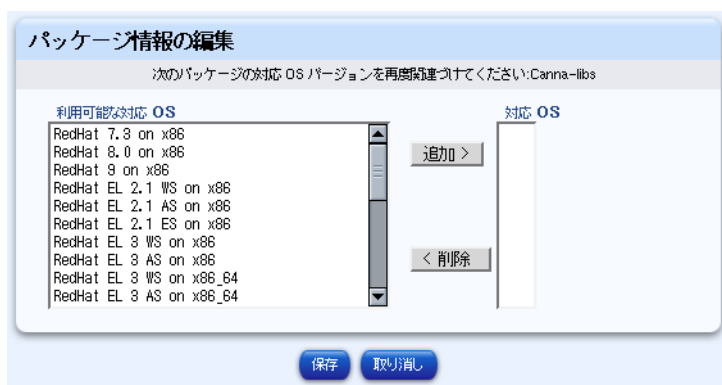


図 6 「パッケージ情報の編集」ウィンドウ

4. 適用できる OS を設定するには、次のオプションを設定します。

- 「利用可能な対応 OS」 - 使用および追加できる OS 一覧から、具体的な対応 OS を選択します。
- 「対応 OS」 - 個々のパッケージファイル内で現在サポートされている OS を削除および変更します。

5. 編集が完了したら、「保存」をクリックします。

注 – 以前に「編集」を使用してオペレーティングシステムをパッケージファイルに割り当てたことがある場合でも、その情報は保管されていないため、この操作をやり直してください。

パッケージファイルの削除

利用可能なパッケージファイルのリストからパッケージファイルを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「ソフトウェアインストールプログラム」 → 「パッケージ」を選択します。
「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウが表示されます。
2. 利用可能なパッケージファイルリストで、削除するパッケージファイルを選択します。
3. 「削除」をクリックします。
確認ダイアログが表示され、パッケージの削除命令の実行を確認します。
4. 「確認する」をクリックします。
パッケージファイルが削除され、「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウに戻ります。

パッケージファイルのインストール

パッケージファイルをインストールする手順は、次のとおりです。

1. 「ソフトウェアインストールプログラム」 → 「パッケージ」を選択します。
「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウが表示されます。
2. 利用可能なパッケージファイルリストで、インストールするパッケージファイルを選択します。
3. 「インストール」をクリックします。
「パッケージのインストール先ホストを選択」ウィンドウが表示されます。



図 7 「パッケージのインストール先ホストを選択」ウィンドウ

4. インストールするパッケージファイルをクリックします。
必要に応じて、「すべてを選択」と「すべての選択を解除」ボタンを選択します。
5. インストール前にパッケージファイルをテストして確認するには、「インストールのテスト」をクリックします。
このオプションはインストールの実現可能性をチェックします。終了後にインストールに戻るには、「完了」または「イベントの表示」をクリックします。

注 – 選択したパッケージファイルで対応していない OS を選択するとエラーメッセージが表示されるので、続行する前に対応 OS を更新してください。

6. 「今すぐインストール」をクリックします。
「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。
7. インストールが完了または停止したら、「完了」または「イベントの表示」をクリックします。

注 – パッケージファイルがインストールされると、システムは、インストール済みパッケージファイルの一覧をすぐに更新します。

フィルタ

「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウに一度に表示されるパッケージファイル数を制限するには、「フィルタ」機能を使用します。

「フィルタ」機能を使用する手順は、次のとおりです。

1. 「ソフトウェアインストールプログラム」 → 「パッケージ」を選択します。

「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウが表示され、ウィンドウの下部に以下のような「フィルタ」機能が表示されます。



列	検索タイプ	値の検索
名前	より小さい	
名前	より小さい	
名前	より小さい	

フィルタ クリア

図 8 「フィルタ」ウィンドウ

2. 「列」ドロップダウンリストからオプションを選択します。

「列」ドロップダウンリストで利用できる検索条件は次のとおりです。

- 「名前」
- バージョン
- リリース
- ベンダー
- パッケージ
- サマリ

3. 「検索タイプ」ドロップダウンリストからオプションを選択します。

「検索タイプ」ドロップダウンリストで利用できる検索条件は次のとおりです。

- より小さい
- より小さい / 等しい
- 等しい
- 等しくない
- より大きい / 等しい
- より大きい
- 含む
- 含まない

4. 「値の検索」テキストボックスにオプションを入力します。

検索の条件付けに役立つキーワードや句を入力します。

5. 「フィルタ」をクリックします。

入力されたパラメータに応じて「フィルタ」機能がパッケージファイルを検索し、更新した「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウ内に結果を返します。

注 – 「クリア」をクリックすると、「利用可能なパッケージリスト」ウィンドウ内のリスト全体が更新され、利用可能なパッケージファイルのすべてが表示されます。また、フィルタの条件を 1 つクリアするには、「値の検索」テキストボックスからそのテキストを削除して「クリア」をクリックします。
